

スポーツ少年団軟式野球競技規則及び方法

1. 大会特別競技規則

- (1) 試合時間は90分を目安とする。6イニング制で75分を超えた時点で次の回を最終回とする。
(但、時間経過によって打ち切る場合もある。)
- (2) 試合回数は6イニングとするが、上記時間に達した時は、その回までとする。
- (3) 上記時間内において同点の場合、特別延長戦を2回までを限度に行い、なお勝敗が付かない場合は抽選とする。

『特別延長戦』

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁の走者とする。
すなわち、0アウト・二塁の状態にして行う。

- (4) 試合時間に達しても、なお勝敗が決しない場合、抽選によって勝敗を決定する。
- (5) 抽選方法は、全日本軟式野球連盟「学童野球に関する事項」による。
- (6) 降雨、日没等により試合継続が困難となった場合、4回終了以降は正式試合とする。
- (7) 得点差のコールドゲームは採用しない。
- (8) 投手は、変化球を投げることを禁止する。投げた場合はペナルティを課す。ペナルティは、全日本軟式野球連盟「学童野球に関する事項」による。
- (9) 投手の投球制限について、肘・肩の障害防止を考慮し、1人の投手は1日70球以内を投球できる。試合中に70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
- (10) 抗議は引率指導者または当事者が行う。
- (11) 本規則に定められていない事項が生じた場合は、審判員協議のうえ、大会審判長の権により処理する。

2. 危険防止のため次の用具を使用する

- (1) 打者用ヘルメットは7個用意し、打者、次打者、走者及び走塁指導者は、全員両側にイヤーフラップのついたものを着用すること。
- (2) 捕手は捕手用ヘルメットを着用すること。捕手用ヘルメットはマスクが分離したものを使用すること。また、捕手はプロテクター、レガースを着用すること。
- (3) 上記の各用具及びバットは、全日本軟式野球連盟公認（J S B Bマーク入り）のものを使用すること。
- (4) 素振り用の鉄棒（鉄パイプを含む）、バットリングは使用してはならない。
- (5) 金属スパイクの使用を禁止する。

3. 競技運営に関し、次のことを規定する

- (1) 競技者の背番号について、代表団員は10番に統一する。
- (2) 試合中のダッグアウト（ベンチ）の中に入れる人数は次のとおり。
参加申込書に記載された引率指導者、指導者、選手団員16名の計18名とする。
※その他、指導者1名、スコアラー1名、ボールボーイ2名を認める。ボールボーイはヘルメットを着用する。
- (3) 引率指導者の背番号は30番に統一する。
- (4) ダッグアウトの中で携帯用マイクを使用することは禁止する。ただし、監督に限り、メガホンを使用することができる。
- (5) ダッグアウト（ベンチ）は、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。
- (6) 試合前のフィールドイング練習は5分間とする。（ノッカーも必ずユニフォームを着用すること）なお、大会運営の関係で時間を短縮したり、フィールドイング練習なしで試合を開始したりすることもある。
- (7) 球場内でのフリーバッティングは認めない。トスバッティングは相手チームのフィールドイング練習中に限り、外野のファウルグラウンドで行うことができる。
- (8) 第1試合のチームは、試合開始予定時刻30分前、第2試合後は、前の試合開始1時間後、または、3回終了時に本部へメンバー表4部（その内1部には必ずふりがなをつけること）を提出して登録メンバーの照合を受けること。なお、その際、代表団員によって攻守の決定を行う。
- (9) 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。
- (10) 試合開始予定時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
- (11) 試合中、引率指導者または指導者はグラウンドに入って指示を与えることができる（制限3回）。
- (12) 攻守交代は駆け足で行うこと。
- (13) ファウルボールの処理については、1塁側に止まったものは、1塁側のチームが拾う。3塁側に止まったものは、3塁側のチームが拾う。捕手の後方に止まったものは、攻撃側のチームが拾う。なお、拾ったボールは攻撃側の次打者に渡して、それを球審に渡す。
- (14) 小雨の場合でも、日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は試合を行うことがある。
- (15) 雨天の際の連絡について
ア. 試合の実施可否については、試合当日の午前6時30分以降に次の本部役員まで連絡すること。
道岡 彦太 090-1317-4608
蔵本 清則 090-9445-4467
事務局（谷口） 076-443-2141（平日）
イ. 当日試合を全く行わない場合と、午前中見合わせて午後から試合を行う場合があるため、必ず連絡をすること。
- (16) チーム並びに応援団は、連盟の競技者規定に触れることのないよう注意すること。特に、投手が投球モーションに入ったら、応援は止めなければならない。また、好ましくない応援やヤジに対しては、審判員が積極的にそのチームに注意する。本大会は鳴り物入りの応援を禁止する。